

せんそう へいわ かんが
戦争と平和を 考える
こ ほん
子どもの本

2026



いいね! がいっぱい

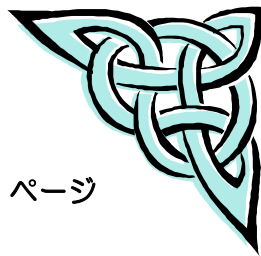
日立市

ひたちしりつきねんとしょかん
日立市立記念図書館

た が と しょ かん
多賀図書館

じゅうおう と しょ かん
十王図書館

なん ぶ と しょ かん
南部図書館



もくじ

ページ

読^よんでほし^{ほん}い本 1～30

読^よんでほし^{ほん}い本に出^でてくる言^{ことば}葉 31～33

日^ひ立^{たち}し^しの戦^{せん}災^{さい}の記^き録^{ろく} 34～36

※リストは、書名の五十音順に並んでいます。

※〔 〕は、図書館で使用している本の分類を表します。

※（ ）は、テーマを表します。



記念：記念図書館

多賀：多賀図書館

十王：十王図書館

南部：南部図書館

よ ほん 読んでほしい本

あか ママ ひ よる
赤ちゃんとお母さんの火の夜

早乙女勝元 作 タミ ヒロコ 絵

新日本出版社

[210 アカ]

とうきょうだいくしゅうちよくぜん う あか かあ しょういだん
東京大空襲直前に生まれた赤ちゃんとお母さんを焼夷弾
なか ふとん はこ まも いし かんごし
の中、布団にくるんでタンカで運び、守りきった医師と看護師さん
わす だいくしゅう ひ わ
たち。忘れてはいけない大空襲秘話。

(東京大空襲)

あき
秋

かこさとし 文・絵 講談社

[絵本]

せんそう ひ さん つら くる けっ わす
戦争の悲惨さ、辛さ、苦しさを決して忘れてはならないこと。
に ど せんそう く かえ あき だいす
二度と戦争を繰り返してはならないこと。秋が大好きだった
さくしゃ へいわ あき つ かさ せんそう つよ おも
作者が、平和な秋を積み重ねてゆくために、戦争への強い思い
こ つた さくひん
を子どもたちに伝えようとした作品です。

(太平洋戦争)

あのころはフリードリヒがいた

ハンス・ペーター・リヒター 作

上田真而子 訳 岩波書店

[943 リヒ]

おさな じん だいにじせかい
幼なじみのフリードリヒは、ユダヤ人でした。第二次世界
たいせんか じんはくがい かれ いっか およ
大戦下のナチスのユダヤ人迫害は、彼の一家にも及びました。
(ナチス ユダヤ人)

あるひあるとき

あまんきみこ 文 ささめやゆき 絵

佐藤仁史 解説監修 のら書店 [絵本]

だ い に じ せ か い たい せん ちゅう ちゅう ごく だ い れん
第二次世界大戦中、中国の大連にすんでいたわたしには、
こけしのハッコちゃんという、たいせつなともだちがいました。
でも、せんそう せんそう に ほん
戦争がおわり日本にひきあげることになると…。作者が
だ い れん ひ び え が は な し
大連ですごした、わすれられない日々を描いたお話です。
(生活)

ある日、戦争がはじまった

イエバ・スカリエツカ 著 神原里枝 訳

小学館クリエイティブ [986スカ]

さい しょう じょ じん せい
12歳の少女イエバの人生は、2022年2月にロシアのウ
クライナ侵攻が始まったことで一変しました。彼女が祖母と暮
らすハルキウは攻撃下におかれ、地下へ避難したイエバは戦争
たい げん に っ き か は じ
体験を日記に書き始めました。

(ウクライナ)

アンネのこと、すべて

アンネ・フランク・ハウス 編 小林エリカ 訳

ポプラ社 [289フラ]

アンネ・フランクが生きたのは、どのような世界だったので
しょう。「ヒトラーはなぜユダヤ人を嫌ったの?」「《隠れ家》
は退屈じゃない?」アンネのたんじょう し いま
誕生から死、そして今までをたど
ります。

(ナチス ユダヤ人)

アンネの日記 増補新訂版

アンネ・フランク 著 深町眞理子 訳

文藝春秋

[949 フラ] 記念、多賀

[949.35 フラ] 十王、南部

アンネが隠れ家で書きとめていた日記は、今も世界中の人々に読みつがれています。

(ナチス ユダヤ人)

いのちは贈りもの

フランシーヌ・クリストフ 著 河野万里子 訳

岩崎書店

[956 クリ]

6歳から12歳までホロコーストという過酷な差別と虐殺を経験した著者による手記です。当時の日記をもとに、まっすぐな視点と透明感、圧倒的な臨場感で、さまざまなできごとや事実を伝えています。

(ナチス ユダヤ人)

いえ

カテリーナ・ティホゾーラ さく

オレクサンドル・プロードン え

すぎもとえみ やく 汐文社

[絵本]

ばくはパパとママといぬのテレシクと、すてきな「いえ」にすんでいました。ある日、戦争がはじまって…。2022年2月、ロシアがウクライナ侵攻を開始し、大勢の人がいえを奪われました。戦争でいえを失った少年の、平和を願う物語です。

(ウクライナ)

いちろう しゃしん にっしょうき も めし
一郎くんの写真 日章旗の持ち主をさがして

木原育子 文 沢野ひとし 絵

福音館書店

[210イチ]

げんえきしんぶんきしゃ いちろうくん か ひ まる はた も めし
現役新聞記者が「一郎君へ」と書かれた日の丸の旗の持ち主を
さが しずおか まち はし まわ しゃしん たいせつ も いちろう
探して、静岡の町を走り回ります。写真を大切に持っていた一郎
くんの母の気持ちから、平和への願いが伝わる実話です。
(戦争 平和)

やくそく
いつかの約束1945

山本悦子 作 平澤朋子 絵

岩崎書店

[F ヤマ]

じぶん さい い で あ
自分は9歳だと言うおばあさんに出会った、ゆきなとみく。
いっしょにまち ある まわ ごじつ いがい ばしょ かのじょ
いっしょに町を歩き回ったふたりは後日、意外な場所で彼女と
さいかい せんそう かた あ わす なつ
再会しました…。戦争について語り合った、忘れられない夏の
いちにち えが ものがたり
一日を描いた物語です。

(空襲 生活)

しょうめん
うしろの正面だあれ

海老名香葉子 作 千葉督太郎 画

金の星社

[914エビ]

こ とうきょうだいこうしゅう あにひとり のこ かぞく うしな
かよ子は、東京大空襲で兄一人を残して家族を失いました。
こ あか ひと す こ げんき
「かよ子は明るくて人に好かれる子だから、元気だして。」こ
ことば ささ い め
の言葉を支えに生き抜きます。

(東京大空襲)

うつく せいしゅん
美しくない青春

小手鞠るい 作 さ・え・ら書房

[F コデ]

しょうじょ さい とし せんそう はじ うつく
少女が11歳になった年に、戦争が始まりました。美しい
じかん あい ひと せんそう せんそう
時間や愛する人たちを、戦争はうばっていきます。そんな戦争の
じだい こころ なか うつく まも しょうじょ きぼう えが
時代でも、心の中の美しさを守りとおした、少女の希望を描
いた物語です。

(戦争 平和)

え よ ひろしま げんぱく
絵で読む広島原爆

文 那須正幹 絵 西村繁男

福音館書店

[319 エデ]

げんぱく ぜんたいそう か がく えほん がつ か ひろしま
原爆の全体像をとらえた科学絵本です。8月6日の広島
できごと か こ げんざい みらい わたし
出来事は、過去ではなく、現在、未来につながっていることを私
たちに伝えてくれます。

(原爆 広島)

えほん
絵本おこりじそう

山口勇子 原作 沼田曜一 語り 四国五郎 絵

金の星社

[絵本]

げん しばくだん ひ ばく ちよくご ひろしま ぜんしん お おんな こ
原子爆弾被爆直後の広島で、全身にやけどを負った女の子が
みず ちと まえ たお ほ ほえ
水を求めて「わらいじそう」の前で倒れました。すると、微笑み
を浮かべていたおじぞうさんの顔がみるみる変わっていきまし
た。

(原爆 広島)

きせき
エリカ奇跡のいのち

ルース・バンダー・シー 文

ロベルト・インノチェンティ 絵

柳田邦男 訳 講談社

[絵本]

だ い に じ せ か い たい せん ちゅう きょう せい しゅう よう じょ む き し ゃ な か ひ と り
第二次世界大戦中、強制収容所に向かう汽車の中から一人の
あ か ぼう な だ し む き し ゃ い の
赤ん坊が投げ出されました。死に向かう汽車から生き延びたエ
リカの物語です。

(ナチス ユダヤ人)

えんぴつびな

長崎源之助 作 長谷川知子 絵

金の星社

[絵本]

そ か い き き が っ こ う と も だ ち わ た し し ん せ つ
疎開先の学校で友達になったシンペイちゃんは、私には親切
で、えん ぴ つ つ く ば ん く う し ゅ う
鉛筆で作ったおひなさまをくれました。その晩、空襲でシ
ンペイちゃんは、な
亡くなりました。

(空襲 生活)

おかあさんのいのり

武鹿悦子 さく 江頭路子 え

岩崎書店

[絵本]

あ か う か あ こ へ い わ に ち じ ゅ う
赤ちゃんが生まれたお母さんは、子どもが平和な日常
す を 過 ぎ し て い き、す く す く と せい ち ょ う い の
を過ごしていき、すくすくと成長していくことを祈りま
す。「そのてが、どうか じ ゅ う な ど に ぎ り ま せ ん よ う に。」
か あ か た へ い わ ね が こ え ほ ん
お母さんが語りかける、平和への願いが込められた絵本
です。

(生活)

おとなになれなかった 弟 たちに・・・ おとうと

米倉齊加年 作 偕成社 [絵本]

太平洋戦争末期に 弟 が生まれました。小学四年生だったぼくは、お腹がすいて、弟 の配給のミルクまで隠れて飲んでいました。

栄養失調で死んだ 弟 へのぼくの罪悪感と母の悲しみが伝わってきます。

(生活)

かけふみ

朽木祥 作 網中いづる 絵

光村図書出版 [F クツ]

広島島の祖母の家で夏休みを過ごす、拓海。戦前は学校だった児童館の図書室で、三つ編みの女の子と出会いますが…。少年と少女の不思議な一夏の物語です。原爆や平和について深く知ることができる<ヒロシマへの道しるべ>も収められています。

(原爆 広島)

風が吹くとき かぜ ふう

レイモンド・ブリッグズ 作

さくまゆみこ 訳 あすなろ書房

[726カゼ]記念

[726. 1カゼ]多賀、十王、南部

核戦争によって、老夫婦が犠牲になっていく姿を描いたイギリスの絵本です。

(核戦争)

ガラスのうさぎ 新版

高木敏子 作 武部本一郎 画

金の星社

[F タカ]

1945^{ねん}年^{さくしや}作者は、12^{さい}歳の^{とき}時に^{とうきやうだいこうしゅう}東京大空襲^{かあ}でお母さんと
二人^{ふたり}の^{いもうと}妹^なを亡くしました。さらに^{せんとうき}戦闘機^{きじゅうそうしや}の^{とう}機銃掃射^{うば}によって
お父^{とう}さんまで奪^{うば}われました。

(東京大空襲)

かわいそうなぞう

つちやゆきお ぶん たけべもといちろう え

金の星社

[絵本]

日本^{にほん}が戦争^{せんそう}をしていた頃^{ころ}、動物^{どうぶつ}たちも戦争^{せんそう}の犠牲^{ぎせい}になりました。
上野^{うえの}動物園^{どうぶつえん}でも多くの動物^{おお}たちが殺^{どうぶつ}されました。そして、人気者^{にんきもの}
さん^{さんとう}とぞう^{ぞう}たちも命^{いのち}を落^おとしました。

(動物)

きいろ ほし 黄色い星

カーメン・アグラ・ディーディ 文

ヘンリー・ソレンセン 絵 那須田淳 訳

BL出版

[絵本]

第二^{だいに}次^じ世界^{せかい}大戦^{たいせん}の頃^{ころ}、ヨーロッパではナチスドイツ^{せい}の勢^{せい}
力^{りよく}が増^まし、隣接^{りんせつ}するデンマーク^{くら}にも暗^{かげ}い影^おを落^おとしていました。
「ユダヤ人は、全員^{ぜんいん}黄色^{きいろ}い星^{ほし}を付^つけなければならない」という
命令^{めいれい}がくだった時^{とき}、デンマーク^{こくおう}の国王^{ひとびと}、そして人々^{ひと}はどうしたの
でしょうか。

(デンマーク ユダヤ人)

き 聞かせて、おじいちゃん

横田明子 著 山田朗 監修

国土社

[319 キカ]

おじいちゃんが心^{こころ}の奥底^{おくそこ}に閉じ込めてきた原爆^{げんばく}の記憶^{きおく}。孫^{まご}の自由研究^{じゆうけんきゅう}のために語り^{かた}始めた^{はじ}ことがきっかけで、失^{うしな}われつつある被爆体験^{ひばくたいけん}を、「語り部^{かたべ}」の活動^{かつどう}をとおして子ども達^こに話^{はな}して伝え^{つた}始めたおじいちゃん達^{たち}のお話^{はな}しです。

(原爆 広島)

くらげのパポちゃん

かこさとし 文 中島加名 絵 講談社 [絵本]

少年^{しょうねん}の父親^{ちちおや}が戦争^{せんそう}によって、南^{みなみ}の島^{しま}で亡^なくなったことを知^しった、くらげのパポちゃん。父親^{ちちおや}の行方^{ゆくえ}を探^{さが}してあげようと、大海原^{おおうなばら}へ向^むかいますが…。祖父^{そふ}・かこさとしから孫^{まご}・中島加名^{なかじまかめい}へ、そして子どもたち^こへと受け継^つがれる、平和^{へいわ}への想^{おも}いが伝^{つた}わる絵^え本^{ほん}です。

(戦争 平和)

せんそう へいわ こども戦争と平和

小原雅博 監修・著 バウンド 著

カンゼン

[319 コド]

なぜ人^{ひと}は争^{あそ}ってしまうのだろう？どうすれば平和^{へいわ}になるのだろう？世界^{せかい}で起^おこっている紛争^{ふんそう}がなぜ起^おこっているのか、写真^{しゃしん}や図表^{ずひょう}とともに解説^{かいせつ}しています。戦争^{せんそう}と平和^{へいわ}について、一人^{ひとり}ひとりが考^{かんが}えるきっかけになる一冊^{いっさつ}です。

(戦争 平和)

読んでほしい本

子どもたちへ、今こそ伝える戦争

長新太〔ほか〕 著 杉浦範茂 絵

講談社

〔210 コド〕

子どもの時に戦争を体験した、児童書の作家19人による
実話です。戦争の悲惨さや残酷さ、そして恐ろしさを今こそ子ども
たちに知ってほしい、そんな思いが伝わってきます。

（空襲 生活）

この本をかくして

マーガレット・ワイルド 文 フレヤ・ブラックウッド 絵 ア
ーサー・ビナード 訳 岩崎書店 〔絵本〕

戦争の爆弾が図書館にあたって、町は燃え、図書館の本も粉々
になってしまいました。残った本は、ピーターのお父さんが
図書館から借りていた1冊だけです。

（生活）

これから戦場に向かいます

山本美香 文・写真 ポプラ社

〔319 コレ〕

2012年8月、シリア内線を取材中に銃撃を受けた著者が、若
い人々や子どもたちに伝えたいと撮った戦争の真実。戦場ジャ
ーナリストとしての使命感が感じられる写真ばかりです。

（シリア内線）

さがしています

アーサー・ビナード作 岡倉禎志 写真

童心社

〔絵本〕

ひろしま げんぱく お しみんかん と き と
広島に原爆が落とされた瞬間に時が止まってしまった
『ものたち』。床屋さんの壁時計、中身が真っ黒焦げになった
お弁当箱…。その『ものたち』が、あの日のことや持ち主のこと
を私たちに語りかけます。

（生活）

さだこ せんぱづる 禎子の千羽鶴

佐々木雅弘 著 くまおり純 画

学研パブリッシング

〔916 ササ〕

ひばく さい な しょうじょ けんめい
被爆により、わずか12歳で亡くなった少女が、懸命に
お いの つる かぞく おも こ
折った祈りの鶴には、家族への思いやりが込められていました。
げんぱく こ そう さ さ き さだこ じつ あに
原爆の子の像のモデルとなった佐々木禎子さんの実の兄がつづ
かぞく ものがたり
る家族の物語。

（原爆 広島）

じ 字のないはがき

向田邦子 原作 角田光代 文 西加奈子 絵

小学館

〔絵本〕

そ かい いちろうと とう わた
疎開する妹に、お父さんはたくさんのはがきを渡して、「げ
ん きな日は、はがきにまるを書いて、毎日1枚ずつポストに入れ
なさい」と言いました。最初に届いたはがきには、はみだすく
らいの大きな赤いまる。ところが…。

（生活）

しょうがくせい きしゃ 小学生記者がナガサキを記事にする

前田真里 著 くもん出版 [319シヨ]

ぜんこく あつ しょうがくせい じぶん す ちいき
全国から集まってきた小学生が、ナガサキや自分が住む地域
たいへいようせんそう しゅざい きしゃ しんぶん
の太平洋戦争について取材し、おやこ記者新聞『ナガサキ・ピ
ース・タイムズ』のきしゃ か かつどう
の記事を書く活動があります。

げんぱく せんそう つた し
原爆や戦争のことをみんなに伝えたい、知ってもらいたいと
かつやく しょうがくせい しょうかい
活躍する小学生たちを紹介しします。

(原爆 長崎)

じらい はな 地雷ではなく花をください

じらい はな ぞく
地雷ではなく花をください 続

じらい はな ぞくぞく
地雷ではなく花をください 続々

じらい はな ありがとう地雷ではなく花をください

こころ じらい はな
心をこめて地雷ではなく花をください

絵 葉祥明 文 柳瀬房子 自由国民社

[絵本]記念、多賀、南部 [369 シラ]十王

せんそう お じらい う
戦争が終わっても、地雷が埋められたままになっています。そ
れをふ ひと いのち お てあし な
を踏んで、たくさんの人が命を落としたり、手足を失くしたり
しています。じらい か はな う よ えほん
地雷の代わりに花を植えようと呼びかける絵本です。
(地雷)

しらはた しょうじょ
白旗の少女

比嘉富子 作 依光隆 絵 講談社 [916ヒガ]

太平洋戦争末期の沖縄で戦火の中をさまよひ、富子は、逃げ込んだガマ（ほら穴）で体の不自由な老夫婦に助けられました。二人は、富子に命の大切さを語り、白旗を持ってガマから出ることをすすめました。

（沖縄戦）

ひみつ としょかん
シリアの秘密の図書館

ワファール・タルノーフスカ 作 ヴァリ・ミンツィ 絵
原田 勝 訳 くもん出版 [絵本]

内戦が始まった町ダマスカスで、ヌールといとこのアミールは、地下シェルターに秘密の図書館を作ることを思いつきます。本のことを考えている間、子どもたちはいつとき戦争を忘れることができ、希望と安らぎを見出しました。

じつざい ちか としょかん ちゃくそう え ものがたりえほん
実在した地下図書館から着想を得た物語絵本です。

（生活）

すぎはらちうね いのち じゆう みち
杉原千畝と命のビザ 自由への道

ケン・モチツキ 作 ドム・リー 絵
中家多恵子 訳 汐文社 [絵本]

外交官・杉原千畝は、ポーランドから避難してきたユダヤ人に対し、日本政府に背いてビザを発給し続けました。当時5歳だった息子の目線から描かれた、父・千畝の物語です。（ナチス ユダヤ人）

すずばあちゃんのおくりもの

最上一平 文 黒井健 絵
新日本出版社

[絵本]

すずばあちゃんは、あちこちに花の種^{はな たね}をまきます。村^{むら}の人^{ひと}たちは、「すずばあちゃんのおくりもの」と呼^よんでいます。すずばあちゃんが花の種^{はな たね}をまくのは、戦^{せんそう}争^{とき}の時^{けいけん}に経験^{つら}した辛^{かな}く悲^{かな}しい思い出^{おもいで}があったからでした。

(生活)

せかいいちうつくしいぼくの村^{むら}

小林豊 作・絵 ポプラ社

[絵本]

アフガニスタンの小^{ちい}さな村^{むら}パグマンに住^すんでいるヤモ少年^{しょうねん}は、初^{はじ}めて街^{まち}で果^{くだもの}物を^う売^りました。しかし、その年^{とし}、少年^{しょうねん}の村^{むら}は、戦^{せんそう}争^{こわ}で壊^{こわ}され、なくなっしまいました。

(アフガニスタン)

せかいでいちばんつよい国^{くに}

デビッド・マッキー 作 なかがわちひろ 訳

光村教育図書

[絵本]

世界^{せかい}征服^{せいふく}をめざした大^{おお}きな国^{くに}の大^{だい}統領^{とうりょう}が最^{さい}後^ごに攻^せめようとしたのは、平^{へい}和^わで武^ぶ器^きを持^もたない国^{くに}でした。本^{ほん}当^{とう}に強^{つよ}い国^{くに}は、ど^{どこ}でし^{しょう}う。

(武器)

せ かい い ち ば ん お く
世界で一番の贈りもの

マイケル・モーパーゴ 作 佐藤見果夢 訳

評論社

[933 モパ]

がらくた屋の店先にあったひどいありさまの机。それを手に
い 入 けて修理をしてい くと、秘密の引き出しを見つけました。そ
なか 中には、最前線 戦 う兵士が妻にあてた手紙がありました。
(生活)

せん か こ
戦火のなかの子どもたち

岩崎ちひろ 作 岩崎書店

[絵本]

ベトナム戦争が続いていたころ、戦火の中で生き、死んでい
った子どもたちの想いを描いた本です。短い言葉と優しく柔ら
かい絵で生きることの厳しさを伝えています。

(ベトナム)

ねん がつ か じ ぶん
1945年8月6日あさ8時15分、わたしは

原爆を体験した子どもたち 言葉

いわさきちひろ 絵 童心社

[916 セン]

原爆を体験した子どもたちの声をつづった、『わたしがちいさ
かったときに』から生まれた絵本です。子どもたちの作文には戦争
の悲惨さと平和への強い願いが込められ、わたしたちも今日を
あす 明日をどう生きるのか、ともに 考 えさせられます。

(原爆 広島)

せんじょう ひみつとしょかん
戦場の秘密図書館

マイク・トムソン 著 小国綾子 編訳

文溪堂

[O10 セン]

ないせんか まち ひら ひみつ
内戦下のシリアの町ダラヤに、ひっそりと開かれた秘密の
としょかん ぜつぼうてき じょうきよう ひとひと ばしよ ぐん
図書館。絶望的な状況の人々をささえたその場所は、やがて軍
によって踏み（ふ）にじられてしまいます。しかし、ひとひと ところ きぼう
の種はまかれていたのです。

（生活）

せんそう まち
戦争が町にやってくる

ロマナ・ロマネーシン、アンドリー・レシヴ 作

金原 瑞人 訳 ブロンズ新社 [絵本]

はな そだ とり くさき はな うつく まち
花を育て、鳥や草木に話しかけながら、美しい町・ロンドで
ひとひと たの く ひ せんそう まち
人々は楽しく暮らしていました。そんなある日、「戦争」が町に
やってきて…。ウクライナの作家が子どもたちに向けて、戦争と
へいわ えが えほん
平和について描いた絵本です。

（戦争）

ひ
せんそうがやってきた日

ニコラ・デイビス 作 レベッカ・コップ 絵

長友恵子 訳 鈴木出版 [絵本]

ごぜんちゅう じゅぎょう お せんそう
午前中の授業が終わり、ランチタイムのすぐあとに戦争がや
つてきました。戦争はどこまで逃げて（に）も追いかけてきます。その
せんそう ふ はら こ
戦争を振り払ってくれたのは、子どもたちのやさしさでした。

（生活）

せんそうしない

たにかわしゅんたろう ぶん えがしらみちこ え
講談社 [絵本]

なぜ、人間^{にんげん}だけが、人間^{にんげん}の大人^{おとな}だけが、戦争^{せんそう}をやめられない
のでしょうか。大人^{おとな}が守^{まも}っていかなければならないのは、子^こ
もたちの何気^{なにげ}ない日^{にち}常^{じょう}と笑顔^{えがお}です。作者^{さくしや}の言葉^{ことば}は、静^{しず}かに、ゆ
っくりと読^よむ人^{ひと}の心^{こころ}にしみ込^こんでいきます。

(生活)

せんそうたいけん かた つ 戦争体験を「語り」・「継ぐ」

学研プラス [319 セン]

戦争^{せんそう}を体験^{たいけん}していない世代^{せだい}が、どのように戦争^{せんそう}体験^{たいけん}を語り継^{かた}
いでいくのか？

この本^{ほん}で紹介^{しょうかい}されている、広島^{ひろしま}・長崎^{ながさき}・沖縄^{おきなわ}での語り継^{かた}ぐ活動^{かつどう}
や平和教育^{へい わきょう}を知^しり、考^{かん}えたこと、感^{かん}じたことをみんなで話^はし合^あ
う、それが「語り」「継ぐ」ことの第一^{だいいっぽ}歩^ぽです。

(生活)

せんそう 戦争は、

ジョゼ・ジョルジェ・レトリア 文

アンドレ・レトリア 絵

木下眞穂 訳 岩波書店 [絵本]

戦争^{せんそう}は、まるで病^{びょう}気^きのように忍^{しの}び寄^より、憎^{にく}しみや野^や心^{しん}を糧^{かて}
して育^{そだ}ち、日^{にち}常^{じょう}をずたずたにするもの…。ポルトガル^{だいひょう}を代^{だい}表^{ひょう}す
る文学^{ぶんがく}者^{しや}の詩^しと、その息^{むすこ}子^こによる絵^えで、戦争^{せんそう}の恐^{おそ}ろしさを描^{えが}
きます。

(戦争)

せんそう ひと
戦争をやめた人たち

鈴木まもる 文・絵 あすなろ出版

[絵本]

ねん だいいちじせ かい たいせん げつご
1914年、第一次世界大戦からわずか5ヶ月後のクリスマス
イブ。フランスやベルギーに攻め込むドイツ軍と、むかえうつ
ぐん さいぜんせん じっさい お はなし
イギリス軍との最前線で実際に起こった話です。

(第一次世界大戦)

だんしゃく
そらいろ男爵

ジル・ボム 文 ティエリー・デデュー 絵

中島さおり 訳 主婦の友社 [絵本]

とり と あお そら どくしょ あい だんしゃく
鳥が飛ぶ青い空と、読書をこよなく愛したそらいろ男爵。ユ
ほうほう くに くに たたか
ニークな方法で国と国との戦いをやめさせました。
てせい ひ こう き の せんそう お だんしゃく さいご
お手製の飛行機に乗り、戦争を終わらせるために男爵が最後に
とう か
投下したものは…。

(武器)

たいよう こ
太陽の子 てだのふあ

灰谷健次郎 作 田畑精一 絵 理論社

[F ハイ]

ふうちゃんは、おきなわしゅっしん とう かあ こうべ たの
く 暮らししていました。ところが、ふうちゃんが ねんせい と き とう
6年生のときにお父
さん が ころ びょうき
さんが心の病気にかかりました。

(沖縄戦)

だれのこどももころさせない

西郷南海子 文 浜田桂子 絵

かもがわ出版

[絵本]

「きょうのよる、せんそうにならない？」戦争の不安におびえる子どもを安心させたいという母親の願いを伝えます。

(生活)

ちいちゃんのかげおくり

あまんきみこ 作 上野紀子 絵

あかね書房

[絵本]

お父さんが戦争に行く前の日、ちいちゃんの家では、家族でかげおくりの遊びをしました。空襲の夜、家族とはぐれたちいちゃんは、かげおくりの夢を見ながら亡くなりました。

(空襲 生活)

父さんの手紙はぜんぶおぼえた

タミ・シュムニトヴ 著 母袋夏生 訳

岩波書店

[929 シエ]

オランダにナチス・ドイツが侵攻すると、ユダヤ人少女リーネケは、身を守るために、家族とはなれ遠い村の家にあずけられました。彼女の心の支えは、父親からのユーモアあふれる絵入りの手紙でした。

(ナチス ユダヤ人)

としょかん

図書館にいたユニコーン

マイケル・モーパーゴ 作 ゲーリー・ブライズ 絵

おびかゆうこ 訳

徳間書店

[933 モパ]

トマスは、^{がっこう}学校からかえると、いつも^{もり}森へあそびに^い行きます。
ある日、お母さんに連れられて行った^{としょかん}図書館で、木でできた^きユニ
ニコーンに出会いますが、やがて^{せんそう}戦争がやってきます。

(生活)

トットちゃんの15つぶのだいず

黒柳徹子 原案 柏葉幸子 文 松本春野 絵

講談社

[絵本]

トットちゃんが^{しょうがっこう}小学校2年生の時、日本は戦争を始め、^{あたり}当
前の日常が^{うば}奪われてしまいます。1日に^{にち た}食べられる^た食べ物^{もの}は、
^{だいず}大豆がたったの15粒^{つぶ}だけでした。トットちゃんは、お腹^{なか}が^す空い
て全部^{ぜんぶ た}食べてしまおうかと^{なやみ}悩めます。

こんな^{しょうきよう}状況^{ねん つづ}が、4年も続いたのです。

(生活)

トビウオのぼうやはびょうきです

いぬいとみこ 作 津田櫓冬 絵

金の星社

[絵本]

1954年^{ねんだいへいよう}太平洋^{かんしょう}ビキニ環礁^{すい そばくだん}で、水素^{じっけん}爆弾^{びょうき}の実験^{じっけん}がありました。
実験^{じっけん}の影響^{えいきよう}を受けて、トビウオのぼうやは、病^{びょうき}気^きにかかってし
まいました。

(水素爆弾)

ドームがたり

アーサー・ビナード 作 スズキコージ 画

玉川大学出版部

[絵本]

100^{ねんいじょう}年以上も^{ひろしま}広島を、^{せかい}世界を^み見てきたドーム。そばに立つ^とと、^{とお}遠いものもち^ちっちゃいものも、^みみんな見えてくる。ドームとは^{なん}何なのか…。^{みらい}未来へ^{きおく}記憶をつなぎます。

(生活)

なきむしせいとく

たじまゆきひこ 作

童心社

[絵本]

ここは1945年の^{おきなわ}沖縄。少年^{しょうねん}「せいとく」は、いつも泣^ないているので、みんなから「なちぶー」と呼^よばれています。ある日、^{はは}母と^{いもうと}妹の3人^{にん}で^{みなみ}南へ^に逃げることになりますが…。^{へいわ}平和を^{ねが}願い、^{おきなわ}沖縄を^み見つめ^{つづ}続けてきた^{さくしや}作者が^{えが}描いた^{おきなわせん}沖縄戦の^{えほん}絵本です。

(沖縄戦)

はだしのゲン 全10巻

中沢啓治 汐文社

[726. 1ハダ]

ゲンの家族は、^{かそく}広島に^{ひろしま}落^おとされた^{げんばく}原爆の^{ひがい}被害を^う受けました。しかし、ゲンたちは、^や焼け^の野原とな^{はら}った^{まち}町で^いたくましく^い生きぬいていきます。

(原爆 広島)

はは つく 母が作ってくれたすごろく

アネニルト・ウェルトハイム 文 長山さき 訳

徳間書店

[949 ウエ]

8歳^{さい}のとき私は^{わたし}、母^{はは}と姉^{あね}と 弟^{おとうと}とともに、日本軍^{にほんぐん}の「抑留所^{よくりゅうじょ}」
に入れられました。2年^いあまりをインドネシア^{ねん}の抑留所^{よくりゅうじょ}で過^すご
したオランダ人^{じん}女性^{じょせい}が、当時^{とうじつか}使^えっていたものや絵^えに寄^よせて語^{かた}っ
た記録^{きろく}です。

(生活)

はんぶん 半分のふるさと わたし にほん 私 が日本にいたときのこと

イ サンクム 著 帆足次郎 画

福音館書店

[916 イ]

韓国人^{かんこくじん}の私^{わたし}は、1930年^{ねん}に日本^{にほん}に生ま^うれ、15年間^{ねんかんせん}戦時^じ下の
日本^{にほん}で差別^{さべつ}を受けながら生^いきてきました。それでも、日本^{にほん}は、
半分^{はんぶん}のふるさとだと語^{かた}る著者^{ちやしゃ}の自伝^{じでん}です。

(差別 生活)

ひかり 光にむかって

くさばよしみ 編 やまなかもちこ 絵

汐文社

[絵本]

ローサー節子^{せつこ}さんが13歳^{さい}のとき^{とき}に広島^{ひろしま}で被爆^{ひばく}した体験^{たいけん}や、姉^{あね}や
甥^{おい}、多く^{おお}の友人^{ゆうじん}を亡^なくした悲しみ^{かな}と 憤^{いきどお}りが描^{えが}かれています。
ノーベル平和^{へいわ}賞^{しょう}授賞式^{じゆうしょうしき}でのスピーチ^{つく}をもとに作^{つく}られた絵本^{えほん}
です。

(原爆 広島)

ひと はな
一つの花

文 今西祐行 絵 鈴木義治 ポプラ社

[絵本]

「一つだけ ちょうだい。」これが、ゆみ子の覚えた最初の言葉でした。駅で「一つだけ ちょうだい。」と泣き出すゆみ子にお父さんは一輪のコスモスを渡し、戦地に旅立って行きました。

(生活)

ひばくしゃ
被爆者

ひばくしゃ そく
被爆者 続

会田法行 写真・文 ポプラ社 [319ヒバ]

広島・長崎で被爆した人々が後世に伝えるべき使命を持って、自分の体を示して語って聞かせます。話の内容は、重みを持って私たちの心に迫ります。

(原爆 広島 長崎)

き
ヒロシマ消えたかぞく

指田和 著 鈴木六郎 写真 ポプラ社 [絵本]

「あしたは、なにをしようかな。ね、おにいちゃん？」戦時中にも“明日”がありました。父親が撮ったいくつもの写真。幸せそうな笑顔の家族がそこにあります。それをすべてうばった戦争とは…。女の子の目線で描かれたヒロシマのある家族の記録。

(原爆 広島)

ひろしまのピカ

丸木俊 え・文 小峰書店

[絵本]

「ピカは、ひとがおとさにゃ、おちてこん」

ひろしま げんばく ひろしまに あった みいちゃん と 家族 は、 激しい 火 の 中
を 逃げ ました。 町 は、 地獄 の よう で した。

(原爆 広島)

ヒロシマのいのちの水

指田和 文 野村たかあき 絵 文研出版

[絵本]

まいとし がつ か ひろしまし へい わ き ねん しきてん げんばく いれい ひ みずくよう
毎年8月6日、広島市の平和記念式典で原爆慰霊碑に水供養
を行なう 女性 が います。 宇根利枝 さんは、120ヶ所 も ある 慰霊
碑 に 水 を 捧げる 活動 を 50年 以上 も 続けて きました。 その きっ
かけ となった 体験 を 広島 を 訪れた 子ども たちに 語ります。

(原爆 広島)

ヒロシマをのこす

佐藤真澄 著 汐文社

[319 ヒロ]

こく ない か い おお ひと おとす ひろしま へい わ き ねん しりょうかん
国内外から多くの人が訪れる「広島平和記念資料館
(原爆資料館)」。平和を訴える人々の叫びが響く資料館は、
ひとりの男の執念と努力によって誕生しました。

(原爆 広島)

ファニー 13歳の指揮官

ファニー・ベン＝アミ 著 伏見操 訳

岩波書店

[929 ペン]

フランスで暮らしていたユダヤ人の13歳の少女、ファニー。
1943年、ユダヤ人迫害のなか、大勢の子どもたちの命を預かるリーダー役として、スイスへ子どもたちだけの危険な逃避行をします。戦争体験の実話です。

(ユダヤ人)

ふたりの約束

ブニーナ・ツヴィー マーギー・ウォルフ 文

イザベル・カーディナル 絵

金原瑞人 訳

西村書店

[絵本]

両親から3つの金貨を渡され、なにがあっても妹のレイチエルと一緒にいることを約束した姉のドビー。ナチスは両親を連れ去り、姉妹はアウシュビッツ強制収容所に入れられてしまいます。そこでは、おそろしい危険が待ち構えていました。勇敢な姉妹の実話。

(ナチス ユダヤ人)

へいわってすてきだね

安里有生 詩 長谷川義史 画

ブロンズ新社

[絵本]

沖縄全戦没者追悼式の「平和のメッセージ」に寄せた小学1年生の詩です。「へいわってなにかな。」友達や家族と、みんなで平和について考えてみましょう。

(生活)

へいわってどんなこと？

浜田桂子 作 童心社

[絵本]

き^{へい}とね、平和^わってこんなこと。戦争^{せんそう}をしないこと、爆弾^{ばくだん}な
んか落^おとさないこと…。いろいろなことから平和^{へい}をかんが^{かんが}えます。
(生活)

へいわとせんそう

たにかわしゅんたろう ぶん Noritake え

ブロンズ新社

[絵本]

へいわのボクとせんそうのボク、へいわのワタシとせんそう
のワタシ。何^{なに}がかわ^かわるのだろう。比^{くら}べてみると違^{ちが}いが見^みえる平和^{へい}
絵^え本^{ほん}です。

(生活)

へいわ 平和の Baton

弓狩^{ゆみ}純^{しん} 作 くもん出版

[319 ペイ]

ひろしましりつち^{ひろしましりつち}とまちこうこう^{とまちこうこう}のせいと^{せいと}、ひばくしゃ^{ひばくしゃ}はなし^{はなし}き^きげんぱく^{げんぱく}
広島市立基町高校の生徒たちが、被爆者の話を聞き、原爆の
え^えねん^{ねん}かんせい^{かんせい}きおく^{きおく}きろく^{きろく}のこ^{のこ}
絵を1年かけて完成させていきます。記憶を記録に残すことで、
じせだい^{じせだい}へい^{へい}わ^わ
次世代へと平和の Baton がつながっていきます。

(原爆 広島)

へいわ めがみ 平和の女神さまへ

小手鞠い 作 サトウユカ 絵

講談社

[319 ペイ]

せかいじゅう さまざま じだい こ たち してん み せんそう
世界中の様々な時代の子供達の視点から見た戦争、テロな
どについて語られています。また戦争が引き起こす げんざつ ひ お ぎゃくたい さべつ
虐待や差別
ひさん つた こ たち ことば へいわ ふか
の悲惨さを伝えています。子供達の言葉から、平和について深
く かんが さつ
考えさせられる 1冊です。

(戦争 テロ)

ぼくがラーメンたべてるとき

長谷川義史 作・絵 教育画劇

[絵本]

ぼくがラーメンを食べているとき、となり なに
隣では何をしているので
しょう。となり くに なに お
隣の国では何が起こっているのでしょうか。おな そら した
い ひと いま えが
で生きる人たちの今を描いています。

(生活)

ぼくはうそをついた

西村すぐり 作 中島花野 絵

ポプラ社

[F ニシ]

ひろしま しょうがく ねんせい そ ふ げんばく な おお
広島の小 学 5年生リョウタは、祖父から原爆で亡くなった大
おじの はなし き じぶん す まち ある げんばく きす
話を聞きます。そして自分の住む街を歩き、原爆の傷に
ついて かんが はじ せんばい げんばく むすこ
考え始めました。いっぽう先輩のレイは、原爆で息子を
な そう そぼ すく おも へいわ いの
亡くした曾祖母を救いたと思っていますが…。平和への祈り
こ ものがたり
を込めた物語です。

(原爆 広島)

まちゃんと

文 松谷みよ子 絵 司修 偕成社 [絵本]

ひろしま げんぱく おんな こ くち い
広島で原爆にあった女の子は、トマトを口に入れてやると、
「まちゃんと」と言ってもっとほしがりました。やがて、おんな こ
は死んでいきました。

(原爆 広島)

マヤの一生

椋鳩十 作 大日本図書 [F ムク]

いぬ か そく いちいん こ いっしょ おお
犬のマヤは、家族の一員として、子どもたちと一緒に大
きくなりました。ところが、せんそう はじ しょくりょう ぶ そく
て飼った犬たちが次々と殺され、マヤも犠牲になりました。

(動物)

マララのまほうのえんぴつ

マララ・ユスフザイ 作 キャラスクエット 絵
木坂涼 訳 ポプラ社 [絵本]

こ ちい く おんな
マララは、パキスタンの小さなまちに暮らす、ふつうの女の
子です。自分、そしてすべての子どもたちのまな かがや
みらい ことば せかい か ものがたり
未来のために、マララが言葉で世界を変えた物語です。

(生活)

むすめ

ながさき

娘よ、ここが長崎です

筒井茅乃 作 くもん出版 [916 ツツ]

ねん がつ か ながさきし げんばく とう か
1945年8月9日長崎市に原爆が投下されました。

なが いたかしは か せ じしん じゅうしょう お ひとびと きゅうご
永井隆博士は、自身も重傷を負いながら人々の救護にあたり
りました。

ちち たかし すがた み さくしゃ おとな せんそう ひさん
父 隆の姿を見つめていた作者が大人になり、戦争の悲惨さ
と平和の尊さを娘に語り伝えます。

(原爆 長崎)

ものがたりチロヌップのきつね

高橋宏幸 作 金の星社 [F タカ]

きた うみ とう こ
北の海のチロヌップ島で、おじいさんとおばあさんは子ぎつ
ねと仲良くなりました。しかし、せんそう はげ へいたい
ねと仲良くなりました。しかし、戦争が激しくなると、兵隊が
じょうりく けがわ と はじ か ぞく いのち うば
上陸して毛皮を取り始めたため、きつねの家族は、命を奪われ
ました。

(動物)

やくそく

那須正幹 さく 武田美穂 え

ポプラ社

[絵本]

ばあちゃんは、ぼくがちゅうがくせい
になったところから、ぼくを「に
いちゃん」とよぶ。ばあちゃんの兄さんは原爆で死んだのに…。
さい ひろしま ひばく しょうがい へいわ ねが つづ
3歳のときに広島で被爆し、生涯をかけて平和を願い続けた
じどうぶんがくさっか な すまさもと こ のこ ものがたり
児童文学作家、那須正幹が子どもたちに遺した物語です。

(原爆 広島)

や 焼けあとのちかい

半藤一利 文 塚本やすし 絵

大月書店

[絵本]

とうきょうだいくうしゅう きゅうし いっしょう え はんどうしょうねん や
東京大空襲で九死に一生を得た半藤少年。焼けあとで、
「絶対」という言葉は二度と使わないと心に決めました。しか
いま ぜったい ことば つか ところ き
し今、「絶対」という言葉を使って、どうしても伝えたい思い
があります。その思いとは…。

(東京大空襲)

わたしがちいさかったときに

げんばく こ ほか
「原爆の子」他より

長田新〔ほか〕編 いわさきちひろ 画

童心社

[916ワタ]

さくぶん し こうせい ほん さくぶん ひろしま ひばく こ
作文と詩で構成された本です。作文は、広島で被爆した子ども
もたちの文集「原爆の子」から抜粋しました。詩は、「原子雲の
した め だ つく
下より」から抜き出して作られました。

(原爆 広島)

へいわ き ワンガリの平和の木

ジャネット・ウィンター 作 福本友美子 訳

BL出版

[絵本]

ワンガリ・マータイは、アフリカのケニア山のふもとのみどり
ゆたかな村にうまれました。ふるさとのケニアに緑を取りも
どそうとはじめた運動は、やがてせかいに大きく広がっていき
ます。

(生活)

よ ほん で ことば
読んでほしい本に出てくる言葉

おきなわせん
○ 沖縄戦

1945年3月 約55万人のアメリカ兵が沖縄に上陸した。
6月23日に日本兵が全滅して戦争が終わる。県民の約4分の
1の13万人が犠牲になった。

がくどうそかい
○ 学童疎開

戦争中に空襲の被害を避けるため、都市の子どもたち
小学三年生から六年生を農村へ移動させた。

き じゅうそうしゃ
○ 機銃掃射

機関銃で敵を続けて撃つこと

きょうせいしゅうようじょ
○ 強制収容所

国の考えに反対する人や特定の人々を、裁判なしで集めてと
じこめた場所

くうしゅう
○ 空襲

空から飛行機やミサイルによって、建物や都市を攻撃するこ
と

げんぱく げんしばくだん
○ 原爆（原子爆弾）

原子核に核分裂を起こさせ、この核分裂のときに生じる高熱や
放射線を含む巨大な爆発力を利用する爆弾。

1945年に広島、長崎に原爆が落とされた。

読んでほしい本に出てくる言葉

○ 地雷

地上、地面に置き、これに触れた車や人を傷つけ、殺すことを目的とした爆薬

○ 水素爆弾

水素の核融合反応を利用した爆弾

○ 第二次世界大戦

1939年9月 ドイツがポーランドに攻めこんだ。これに対し、イギリス、フランスがドイツに宣戦して戦争が始まった。1941年に日本がアメリカ、イギリスに宣戦して、太平洋側にも広がった。

○ 太平洋戦争

第二次世界大戦のうち1941年12月から1945年8月までのアジアと太平洋地域の戦争

○ 東京大空襲

1945年3月9日の夜ふけから10日の夜明け前にかけて、東京の下町に対して行なわれたアメリカ軍による爆撃。約10万人の人が亡くなった。

○ ナチス

国家社会主義ドイツ労働党の通称。

ヒトラーを党首に1933年 政権を握った。

はいきゅう
○ 配給

せんそうちゅう せいふ しなもの じゅう はんばい きんし こくみん ゆうりょう
戦争中に政府が品物の自由な販売を禁止して、国民に有料
はいふ せいと
で配布するようにした制度

○ ビザ

がいこく にゅうこく ひと くに りょう
外国に入国しようとする人が、あらかじめその国の領
じ しゅとく ひつよう しょういん さしやう
事から取得しておくことが必要な証印。査証ともいう。

ひばく
○ 被爆

げんぱく お ほうしゃせん う
原爆が落とされたとき、放射線を受けること。
かみ け ぬ は つめ ち で はっけつびょう が ん
髪の毛が抜けたり歯ぐきや爪から血が出たり白血病やガン
びょうき
などの病気になった。

せんそう
○ ベトナム戦争

ねんだい お せんそう きた みなみ わ
1960年代にベトナムで起こった戦争。北と南に分かれて
いたベトナムは、1975年に統一された。
ねん とういつ

参考にした本

「アジア・太平洋戦争」ポプラ社

「池上彰の現代史授業」 昭和編① ミネルヴァ書房

「世界大百科事典」平凡社

「せんそうってなんだったの？」 学研

「ジュニア日本の歴史辞典」岩崎書店

「読む日本の歴史」 古川清行 著 あすなろ書房

ひたちし せんさい きろく 日立市の戦災の記録

ひたちし たいへいようせんそうちゅう しょうわ ねん
日立市は、太平洋戦争中の昭和20年（1945
ねん さんど おお ひがい う
年）に三度にわたる大きな被害を受けました。

ひたちせいさくしょひたちこうじょう ばくだんとうか
6月10日 日立製作所日立工場への1トン爆弾投下

ひたち た が じゅうおうちく かんぽうしゃげき
7月17日 日立・多賀・十王地区への艦砲射撃

げんざい ひたちしぜんいき しょういだんとうか
7月19日 現在の日立市全域への焼夷弾投下
ひたちし しがいち わり しょうしつ
日立市は、市街地の8割が消失。
い しはま わり じゅうたく しょうしつ
（伊師浜では、6割の住宅が焼失。）

じゅうおうまち せんそうたいけん きろく

十王町の戦争体験の記録

〔L916 ジュ〕 記念、十王、南部

〔L213.1 ジュ〕 多賀

十王町教育委員会 編 十王町教育委員会
平成 7 年

せんさい けいけん せんちゅうせんご しゅき ちょうみん ほしゅう つく
戦災にあった経験や戦中戦後の手記を町民から募集して作
られた本です。巻末に年表が記載されています。

せんさい せいかつ

戦災と生活

ひたちしめん きろく
日立市民の記録

〔L369 セン〕 記念、南部 〔L213.1 セン〕 多賀

〔L369.3 セン〕 十王

日立市の戦災と生活を記録する市民の会 編
日立市役所 昭和54年

ひたちしめん せんさい たいけん せんちゅうせんご せいかつ しゅき
日立市内で戦災にあった体験や、戦中戦後の生活の手記を
市民から募集して作られた本です。当時の史料や年表も記載されています。

ひたちせんさいし

日立戦災史

〔L369 ヒタ〕 記念 〔L213.1 ヒタ〕 多賀

〔L369.3 ヒタ〕 十王、南部

日立市の戦災と生活を記録する市民の会 編
日立市役所 昭和57年

ひたち せんさい ちゅうしん きじゅつ ほん せんさい せいかつ しまいへん
日立の戦災を中心に記述した本です。「戦災と生活」の姉妹編
です。

日立市の戦災と記録

ひたち くうしゅう

日立の空襲

〔L213 ヒタ〕 記念、南部 〔L213.1 ヒタ〕 多賀

〔LR213.1 ヒタ〕 十王

日立市郷土博物館 編 日立市郷土博物館

平成15年

ふうか せんさいたいけん ほ お せんそう ひさん つた
風化されつつある戦災体験を掘り起こし、戦争の悲惨さを伝
えようとした本です。「戦災と生活」の姉妹編です。

みらい かた つ ひたち せんさい

未来へと語り継ぐ日立の戦災

〔L213.1 ミラ〕

日立市生活環境部市民活動課 編

日立市生活環境部市民活動課 平成28年

ひさん せんそう きおくひとひと こころ なか ふうか
悲惨な戦争の記憶が人々の心の中で風化されつつあります。
ひたちし う だい き ほ せんさい ようす し めん せんさいたいけん きろく
日立市が受けた大規模な戦災の様子や市民の戦災体験を記録に
のこ とく わか せ だい つた せんさいたいけんだん ほしゅう つく
残し、特に若い世代に伝えるために戦災体験談を募集して作ら
れた記録集です。

戦争と平和を考える子どもの本 2026

発行日 令和8年8月1日

編集・発行

日立市立記念図書館

〒317- 0073 日立市幸町 1-21-1

電話 0294 (24) 7714

IP 050(5528)4946

日立市立多賀図書館

〒316- 0006 日立市末広町 1-1-4

電話 0294 (33) 2655

IP 050(8012)6952

日立市立十王図書館

〒319- 1304 日立市十王町友部 202-1

電話 0294 (20) 2345

IP 050(5528)4921

日立市立南部図書館

〒319- 1222 日立市久慈町 3-24-1

電話 0294 (29) 1125

IP 050(5528)4950

核兵器廃絶・平和都市宣言

世界の平和と安全は、人類共通の願いである。

いま、国際的な核軍拡競争は、核戦争の危機を増大し、人類生存の恐怖となっている。

私たちは、再び「広島」「長崎」のあの惨禍を繰り返さないためにも、すべての国に対し、核兵器の廃絶と軍縮を求め、いかなる国の核兵器も許してはならない。

一瞬にして尊い命を奪い、財産を灰にしてしまったあの悲惨な戦争をいかなる理由があろうとも繰り返してはならない。

日立市は、日本国憲法の恒久平和の理念に基づき、核兵器の廃絶と人類永遠の平和を希求し、ここに「核兵器廃絶・平和都市」となることを厳粛に宣言する。

昭和60年12月24日

日立市